

(対象事業：1 地域の中核館として、他館や他機関等と連携して行う事業)

事業名：「親しむ博物館づくり事業」

博物館ワークシート印刷

事業者名：市立長浜城歴史博物館・博学連携推進  
協議会

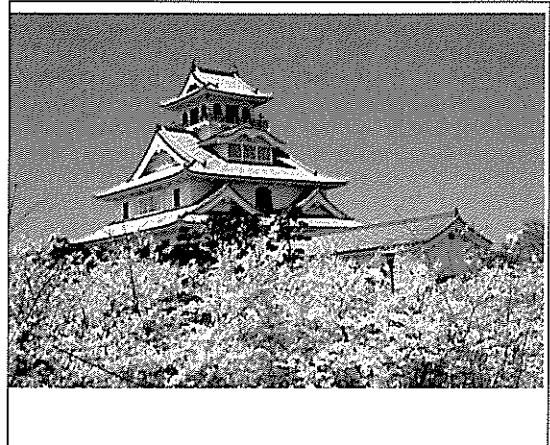
連携事業館名：

住所：滋賀県長浜市公園町10-10

TEL：0749-63-4611

FAX：0749-63-4613

HPアドレス：<http://www.city.nagahama.shiga.jp/section/rekihaku/>



### ① 施設概要

天正元年(1573)8月、戦国大名・浅井氏が滅びると、木下藤吉郎秀吉は、織田信長から小谷城と湖北三郡を与えられて、初めて一国一城の大名となり、姓を「羽柴」と改めた。羽柴秀吉は、天正2年琵琶湖岸に新しい城を建て、城下町づくりを始めた。大坂夏の陣で、豊臣氏が滅んだ後は廃城となったが、その後約400年を経て、長浜に城を建てたいとの市民の願いから、昭和58年4月に再興された。この城の中に博物館施設が建造され、滋賀県湖北地域の歴史文化や民俗を紹介する博物館として運営されている。

### ② 事業の意図目的

長浜城歴史博物館が所蔵する歴史・民俗・美術工芸およびその人材を有効に活用し、学校教育・生涯学習と密接に連携しながら、小中学生を対象として郷土の歴史教育を推進する種々の事業を実施し、親しむ博物館づくりを図るもの。

### ③ 事業概要

親しむ博物館づくりを進めるために、博物館ワークシートを作成し、入館者の歴史的興味をより膨らませる。このため、4種類のワークシートを作成するもの。

(イ) 博物館展示学習用

(ロ) 秀吉の城下町づくり探訪(市内ウォークラリー用)…旧市街地を3時間程度で散策し実地の歴史学習を賛助

(ハ) 郷土文化「長浜曳山祭」学習用…子ども歌舞伎で有名な長浜曳山祭礼を解説。

(ニ) 郷土の生活文化学習用…博物館が所蔵する昭和30年代以前の民具から、昔の生活ぶりを学習する。

### ④ 事業の製作物及び報告書等

事業の制作物 「博物館ワークシート」 (各5千部)

(イ) 博物館展示学習用「長浜城へいこうよ！」

(ロ) 長浜市内ウォークラリー用「たんけん秀吉さんのまち探し」

(ハ) 郷土文化長浜曳山祭学習用「長浜曳山まつり」

(ニ) 郷土の生活文化学習用「人びとのくらしと道具」

### ⑤ 参加者状況

博物館ワークシートの編集報告は平成17年2月27日の博物館協議会、平成17年3月4日の博学連携協議会で行い、完成は平成17年3月22日の定例教育委員会で報告し、以後平成16年度中段階的にこれを活用。今後新年度より本格的運用を開始。

【参考】平成16年度博学連携事業参加児童生徒数 延べ768人

内訳 小学生553人・中学生215人

## (1) 事業の実施状況について

### 親しむ博物館づくり事業

本館が所蔵する歴史・民俗・美術資料、及び館運営に間接的に携わる人材も含めて、それらを有効に活用しながら、小中学生を対象に郷土の歴史教育を推進するための種々の事業を通じ、親しむ博物館づくり事業を実施してきた。その内容は以下の6点である。



長浜城歴史博物館友の会による史跡の臨地見学会

- ①博物館サマースクール…16年度実績・実施回数1回、参加者数32人。
- ②特別展関連ワークショップ…16年度実績・実施回数2回、参加者数94人。
- ③教師向けの博物館講座…16年度実績・実施回数5回、参加者数114人。
- ④学校への出前講座…16年度実績・実施回数5回、参加者数521人
- ⑤博物館での展示解説…16年度実績・実施回数6回、参加者数57人
- ⑥ボランティアスタッフの編成等

【実績数値は平成16年度のものを記載】

以上6点の事業を補完・補強するため、平成16年度には、文化庁の支援のもと博物館ワークシートの作成について取り組んだ。この博物館ワークシートについては、本館の長年の懸案であった。今回のワークシート作成に関しては、上記6点の各事業の実施機会を通じて内容検討を重ね、掲載内容から現場での使用のシミュレーションまでを行い、4種類のワークシートを作成し刊行させ、また一部を学校現場と博物館との協業事業の中などで運用させるに至った。



ワークシートを使った小学校での授業風景  
担当教官は市民ボランティアによる

## (2) 地域との連携について

今回の芸術拠点形成事業を推進するにあたり、市立長浜城歴史博物館では、既に博物館と連携のある既存の地域団体に協力を依頼し、その事業推進に向けて連携を深めてきた。

まず本館では、滋賀県湖北地域の中核博物館として、展示関連エリアを長浜市以外にも広げている関係上、この広域エリアからの展示資料等の情報を得るための組

織として、各地域から市民にそれぞれ協力を依頼して、地域の代表者による展示委員会（定員 30 名）を組織している。この展示委員会から、地域に根ざした芸術拠点形成事業の推進に関して助言と指導を受け、博物館ワークシート制作の一助とした。

次に、博物館事業の賛助団体として活動中の長浜城歴史博物館友の会（現会員数 700 余名）と、長浜市の文化・観光行政への賛助団体でもある長浜市観光ボランティアガイド協会（現会員数 70 名）とも連携し、ワークシートに取り上げるべき地域文化財等に関する情報収集への協力を依頼した。

そして、博物館活動と学校教育の現場との連携を目指す博学連携推進協議会を通じて、学校現場に携わる教職員からの博物館と連携した教育普及活動の在り方について検討する会議を開催した。会議の開催過程は以下の通りである。

■第 1 回協議会

日時：平成 16 年 6 月 22 日（火）15：45～17：00

会場：長浜城歴史博物館地階研修室

内容：事業への取り組みについて

■第 2 回協議会

日時：平成 16 年 8 月 5 日（木）10：00～12：00

会場：長浜城歴史博物館・曳山博物館

内容：長浜城歴史博物館施設および展示の見学と講評

■第 3 回協議会

日時：平成 16 年 12 月 9 日（木）15：00～17：00

会場：黒壁美術館・曳山博物館

内容：基調講演（講師：子どもの美術教育をサポートする会代表・津屋結唱子氏）

■第 4 回協議会

日時：平成 17 年 3 月 4 日（金）15：00～17：00

会場：長浜城歴史博物館

内容：平成 16 年度事業成果について

（3）成果物について

平成 16 年度の本事業にて下記の 4 種類の博物館ワークシート（各 5 千部）を制作。

①. 博物館展示学習用ワークシート

「長浜城へいこうよ！」

小中学生による博物館施設を利用した学習の補助教材として制作したもの。長浜城歴史博物館の展示構成は、滋賀県の湖北地域古代から近現代を、時代順を追って資料が陳列してあることから、ワークシートでは、それぞれの時代におけるテーマを設定し、フルカラーで示した展示内容から児童生徒がその考察や回答



四種類のワークシート

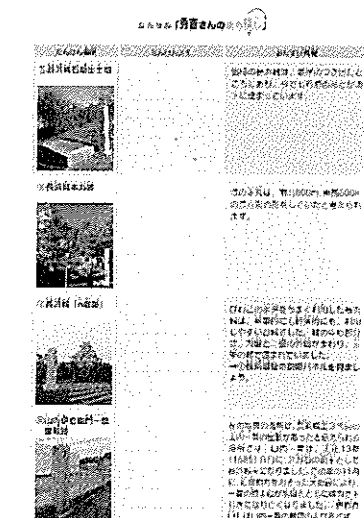
を導き出せるよう、設問が設定されている。長浜市内の小学校で郷土歴史教育が開始される6年生の学力等を基準に内容が構成されているが、使用する漢字などは他学年でも使えるよう小学4年生程度のものに設定した。

また、学校の総合学習の時間に対応できるよう、設問を六つに分けて設定し、必要に応じて設問を選択できる重点学習様式を採用した。そして、要望があれば中高生や大人向けの生涯学習教材としても十分利用できるように運用面での対処も行っている。

## ②. 長浜市内ウォークラリー用ワークシート「たんけん秀吉さんのまち探し」

長浜市内をウォークラリーするグループを対象に構成されたワークシート。滋賀県では、小学4年生を対象に「びわ湖フローティングスクール」が実施されており、市域外の児童生徒が長浜を訪れて地域学習をする機会が多い。この子どもたちが市内を巡検する際のサブシートとして利用しやすいようコースガイドを示した地図を掲載し、かつ目標物を豊富なカラー写真を使って紹介している。

また、構成は子ども向けであるが、年間300万人もの観光客が訪れる長浜市では、より魅力的な観光コースと生涯学習効果の向上を目的として、ワークシート作成にも協力を仰いだ長浜市観光ボランティアガイド協会とも連携し、ビジター向けの資料としてこのワークシートを利用すべく検討中。



「たんけん秀吉さんのまち探し」  
ワークシートの1ページ

## ③. 郷土文化長浜曳山祭学習用ワークシート

### 「長浜曳山まつり」

長浜の伝統文化であり、郷土芸能としても高い評価を受けている長浜曳山祭に関する学習効果を高めるためのワークシート。毎年4月に催される長浜曳山祭には、13基の華麗な曳山が4基ずつ交代で（1基は毎年参加）出てその覇を競うが、それ以外にも、各曳山の舞台上で繰り広げられる子ども狂言や、曳山が移動する際に奏でられるシャギリと呼ばれるお囃子の音色など、その芸術性は高い。

それぞれの局面は郷土学習の素材として長浜市域の学校教育に取り入れられており、例えばシャギリに関しては、音楽の時間の教材として小中学生によって取り組みが行われている。ワークシートでは、そうした多岐にわたる長浜曳山祭をカラー写真をふんだんに盛り込んで簡略に



「長浜曳山まつり」  
ワークシートの1ページ

紹介しつつ、興味を持った内容については、より深く探求できるよう、随所に学習メモ欄を配置するなどの構成がなされている。

#### ④. 郷土の生活文化学習用ワークシート

##### 「人びとの暮らしと道具」

主に民俗資料に関する学習を進める上での賛助となるよう構成されたワークシート。衣生活、食生活、住生活、そして農作業のそれぞれに関して、児童生徒の祖父母が若い頃に使用していた、あるいは使用した様子を聞き伝えに知っている様々な道具を、全てカラー写真で紹介している。取り上げた諸道具の総数は 95 点にもおよび、それらについてその使用方法が 40 文字程度に簡潔に示されている。

そして、このワークシートに掲載された道具の数々は、全て長浜城歴史博物館にほぼ稼働可能な状態で保管されており、ワークシートを利用した学習を計画する教職員に対して、実際に本物の民俗資料を貸与して授業を計画することができるように配慮されている。

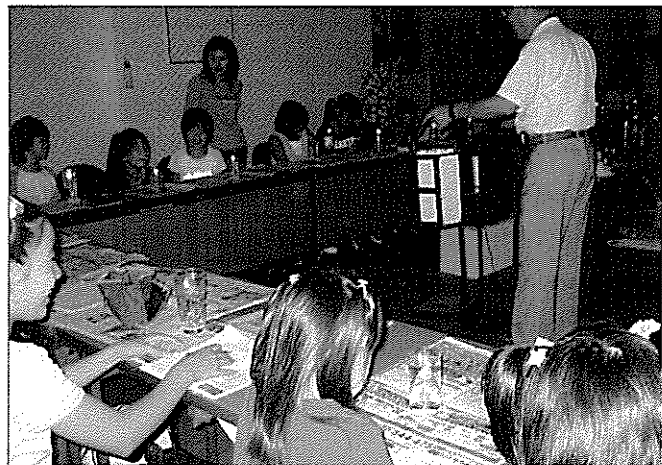


##### 「人びとの暮らしと道具」

##### ワークシートの1ページ

#### (4) 参加者の反応

芸術拠点形成事業を利用した博物館ワークシートの制作については、その制作段階で数多くの市民との交流が図られ、ワークシートを制作するという目的のもと、それぞれが有意義な活動を蓄積できたことを、喜びとして当館に反応として伝えてこられるという場面に多数遭遇した。これは、ワークシートの作成が目的としての芸術拠点形成事業であったのであり、と同時に市民一人一人の芸術文化に対する認識をより深められたという点において効果的であったものと想定される。



##### 「人びとの暮らしと道具」に関する事業より

##### むかしのあかり体験学習講座の様子

また、成果物であるワークシートについて、全4種類各ワークシートは、平成16年度のほぼ一年間をかけて、内容検討と運用面での検討が関係各機関とも協議を重ねた上で作成されたものであり、その本格運用は平成17年度からとなっている。ただ、平成17年度4月期の運用状況を見た範囲では、順調な様相が見て取れる。例えば4月に長浜市内の小中学校を対象として企画された長浜曳山祭事前学習会で

は、市内の 10 の小中学校のうち 9 つの学校がそれぞれ数百名単位でワークシートを利用しており、その評価は高いものと思われる。また、このワークシートに対する一般市民からの問い合わせも多く、観光事業や生涯学習の面からの利用促進も期待できる。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

芸術拠点形成事業を利用した博物館ワークシートの制作については、その制作過程において様々な市民団体や学校現場などとの協業が果たせたことが第一の効果としてあげられる。先の項目にも述べたとおり、ワークシートの作成が、目的としての芸術拠点形成事業であり、同時に市民一人一人の芸術文化に対する認識をより深められたという点において、非常に効果的であったということは、副次的ながらもこの事業の推進を通じて得られた大いなる成果であった。また、今後 4 種類のワークシートを普及させてゆく中でも、その制作過程で培われた絆や協力関係は、より強固なものとして維持されるであろうし、ワークシートという何年にも渡って使用できる成果物を得たことで、単年度に終始しない継続的な事業の波及効果が期待できる点も大きいと拝察される。